

街全体の価値を上げるために 美杉野4丁目自治会

美杉野4丁目にある雑貨屋さん「ぎのよんちょ」に取材に伺いました。街全体の価値を上げるために美杉野4丁目自治会が補助金をどのように活用し、どのような活動をしているのかを、自治会役員の佐野さんと浜本さんにお話を伺いました。

代表者 佐野 隆雄 氏

人数 73人

団体の紹介 まとまりのある、協働や交流・親睦の多い自治会です。周辺住民の生活に潤いを加え、皆が積極的に参加したくなるような自治会へ発展させようと奮闘中です。

地域の現状と事業実施の背景

佐野さん：美杉野4丁目は、シニアタウンとして売り出されていることから、高齢者が多く、人の出入りも多いとは言えない状況でした。空き家が多く、子供たちの通学路にまで草が伸び放題など、安全も見た目も悪い状況とは言えませんでした。自分たちはどういう街に住みたいのかを考えました。

これまでも、定期的に清掃、ラジオ体操、縁日、餅つきなどを行ってきましたが、まず、景観の整備が第一歩だろうと考えて、更地となっている区画の草刈りをするところから始めました。

事業の実施と地域の反応

浜本さん：更地や空き家の庭の草刈りを土地の管理者から引き受け、企業と比べて低額の料金を草刈りを行っています。美観の維持が目標ですから、草が伸びれば何度でも刈ります。この取り組みは、当初はなかなか浸透しませんでした。今では、草を刈っているとご近所のご高齢の方々まで「手伝いますよ。」と集まってきてくれます。地域を綺麗にしようとした活動でしたが、活動を通して、地域の皆さんの発言も増え、コミュニケーションの機会が増えました。またここに住んでいない土地の所有者さんとも、草刈りの実施報告等、定期的に連絡を取ることで、コミュニケーションの輪がどんどん広がっていきます。美観整備として始めた活動は、更地区画から、通学路、公園、さらには、遊歩道まで、街中をきれいにするにつなげていきます。

今後の予定

浜本さん：今年度の取り組みで、さらに緊密な協力体制が出来ました。来年度は、防災体制の整備、健康増進体操、送迎サービスなど、美杉野4丁目全体での取り組みを図っていき、美杉野4丁目以外の地域でもこうした活動が進んでいくような支援をして、より広い地域が住みよい地域となればと思っています。

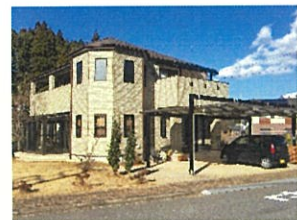
目指すもの

佐野さん：今回の第一歩となる取り組みでは、地域をきれいにして、コミュニケーションの輪を広げ、地域全体の価値を上げることができたと感じています。

来年度以降も、たくさんの人に選んでいただき、人が集まって、さらに暮らしやすく、魅力的な美杉野4丁目を作っていきたいと思っています。

会長の佐野さんは、これからも自治会に入るメリットを作って行きたいとお話をされていました。その理由として、「市がこのまま生き残っていくには、選ばれる市にならないといけない。そのために他市町村などよりもこの市が選ばれるようにしていきたい。」とお話をされていました。

美杉野4丁目を良くしていきたいという熱い思いを感じました。



地域交流の場
「ぎのよんちょ」外観



店内に置かれている地域
の方が持ち寄った雑貨

山武市市民交流 29号 サロンだより



山武市マスコットキャラクター
SUNムシくん

For people who want to know about Civic Activities in Sammu City

発行：サロンだより編集部(山武市総務部市民自治支援課内)
〒289-1392 山武市殿台 296 番地

TEL:0475-80-0151
FAX:0475-82-2107
令和4年3月発行

あなたのアイデアで山武市をよきまちにしませんか？

山武市市民提案型交流のまちづくり推進事業

山武市では「協働による市民が主人公の誇りあるまちづくり」を進めています。この事業では、地域の課題解決や公共サービスをより豊かに展開していこうと自主的に取り組む団体、グループを支援する補助金交付事業です。

補助部門 ※各部門とも、金額は上限です。

スタート部門 (10万円) …新しく活動(事業)を始めるきっかけづくりを目的とした部門です。

チャレンジ部門 (30万円) …活動(事業)の継続・自立を支援する部門です。

協働部門 (50万円) …他団体と協働して、取り組む活動(事業)を支援する部門です。

補助金の対象となる団体、事業の要件がございます。
ご不明な点等は山武市役所市民自治支援課(審査会事務局)
に電話またはメールでお問い合わせください。



詳しくはこちらから。
※山武市公式ホームページへつながります。

山武市市民提案型交流のまちづくり推進事業、サロンだより共通お問い合わせ先
千葉県山武市殿台 296 番地 総務部市民自治支援課
☎0475-85-0151 E-mail: katsudoshien@city.sammu.lg.jp

今年度、補助金を活用されている3団体を次ページからご紹介いたします。

山武市の新たな発見を求めて ぐるっと山武 50kmウォーク実行委員会

地域の繋がりを大切に、持続可能な地域運営を 本 須 賀 第 二 区

これまでに20回の開催を誇る「ぐるっと山武50kmウォーク」。山武市内に50kmという長距離のウォーキングコースを設定し、12時間で歩くというイベントです。コロナ禍において、なかなかイベントの開催がままならない中、実行委員会では新たな試みを始めています。実行委員会委員長の中村さんにお話を伺いました。

代 表 者 中村 彰宏 氏
人 数 10名 (実行委員会)
主 な 活 動 年一回開催の「ぐるっと山武50kmウォーク」の運営
春・秋開催の「ちよろっと山武5kmウォーク」の運営など

コロナ禍でできた新しい提案

「ぐるっと山武50kmウォーク」は、平成21年から始まったウォーキングイベントです。普段は、歩くことがない、また、車で通り過ぎるような場所をあえて1日かけて歩くことで、初めて気づく山武市の魅力を見つかることができるのが良いところ。また、歩いていると地域の方々が声を掛けてくださったり、果物を頂いたりなど地域の皆さんの温かさをとんでも感じられます。たしかに50kmの完歩は、とてもきついです。ですが、終わった後は、1日の発見・体験をみんなで分かち合い、多くの方から支持を頂いております。

現在、コロナ禍で開催が難しい状況が続いています。このような状況で、50kmウォークの魅力を知ってもらいたい、少しでもウォーキングの機会を提供したいと悩んだ末に考え出したのが「ぐるっと山武市 歩いて発見! 魅力マップ」の作成です。今まで蓄積されたデータや参加者の皆さんの声をもとに、「散歩したい、立ち寄りしたい、歩いて気持ちいい」スポットをまとめた50kmウォーク用のマップで、山武市の魅力をできる限り詰め込んでコロナ禍でも外に出てリフレッシュをするきっかけとなるものに仕上げています。また、50kmウォークの公式サイトでは、マップを見ることができるほか、参加者が投稿してくれた写真や感想などを載せて、情報を更新していく予定です。

今後の展望

50kmウォーク開催のほか、マップを見て気になったところを散歩するだけで良いので、多くの方々に活用してもらい、歩いて初めて気づく山武市の魅力を知ってもらえたら嬉しいです。ちなみに、マップを作成するために改めてコースを歩いてみたのですが、そこで生まれたのが「ちよろっと山武5kmウォーク」です。5kmなので気軽に歩くことができ、心身ともにリフレッシュもできます。



山武市内各所でマップを無料配布

来年度は、このマップを活用して、できる限り「ぐるっと山武50kmウォーク」、「ちよろっと山武5kmウォーク」を開催し、皆さんにも活用してもらえたらと思います。

みなさんもぜひ一緒に歩いてみませんか?

連絡先: 中村 彰宏 090-2445-5010
メールアドレス info@sanmu50km.com



ウォーキングイベントの様子 (写真右伊藤佐千夫の生家に立ち寄る参加者)

成東地区の本須賀第二区は、平成18年に設立された区です。少子高齢化の中で、地域の繋がりのために、また、持続可能な地域運営のために本須賀第二区が行っていることを区長の海保さんにお話を伺いました。

代 表 者 海保 幹夫 氏
人 数 150世帯 300人
団 体 の 紹 介 海が近く、夏季は海水浴の観光客で賑わう地区です。元気な高齢者が多く、「公民館しおさい」を拠点に多くの地区行事を展開しています。

どのような活動をしているのですか。

公民館利用促進事業として、健康増進・介護予防と住民交流事業を行っています。

主な活動は、ロコモトレーニング、ボッチャ講習、しおさい祭りなどです。

活動について詳しく教えてください。

ロコモトレーニングとは、高齢者でも楽しみながら実践できる体の健康を維持するためのトレーニングで、片足立ちやスクワットなど様々なメニューを城西国際大学や九十九里病院から専門家を招いて行う本格的なトレーニングとして、毎週開催されています。

ボッチャは、大人から子供まですべての人がハンディキャップを気にせずに行うことのできるスポーツで、今ではパラリンピックの正式種目となったスポーツでもあります。講習は月に二回開催されています。

そして、初めての開催から20回を数える「しおさい祭り」など本須賀第二区が開催する行事は、盛りだくさんです。**しおさい祭りとは、どのようなイベントですか?**

コロナ禍で現在は開催できていませんが、地域のイベントです。ステージ発表では、地元中学校の演奏や轟き太鼓(松尾地区)、カラオケ、地元のフラダンスグループの発表などがありました。令和元年には、地元の自主防災会と連携をし、消火器訓練、煙体験、地震体験を行いました。その他にもビンゴゲーム、お菓子投げなどイベントが盛りだくさんで、出店も多く、ものすごく賑わっていました。



しおさい祭りのステージ発表
(写真左 地元のフラダンスグループ 写真右 轟き太鼓)

しおさい祭りが来年度は開催出来るように、開催方法などを模索していきたいと思っています。

区長の海保さんは、これらの行事を通じて、「地域の繋がりが出来ている」と話していただきました。本須賀第二区は、他の地域と同じく、少子高齢化、区への加入率低下などが課題として挙げられていますが、「元気な高齢者や地域の人材が共に支え合い、地域全体で取り組んでいく。より多くの人に参加してもらいたい、この地域を大切に思うこと、それが地域の持続性を高めていく。」とお話いただきました。

地域の将来像は、「高齢化をどう生かしていくのか。」という課題に対して、「区で開催する行事を通して健康寿命を延長し、『生涯現役の元気な高齢者』を増やしていくこと、そして、自立した区の運営を展開していくこと。」と力強くお話をされていました。

連絡先: 海保 幹夫 090-4730-7691